

# 意見交換会概要

日時	平成25年 6月 28日 (金) 16 : 20 ~ 17 : 00
場所	気高中学校
参加者数	約20人
出席者	校区審議室 (神谷、小谷、清水)、山田支所長、安藤副支所長、茅山課長補佐

発言者	主な意見、質問等
参加者 A	今の資料の中では耐震化の数値が明らかにされていない。公表する必要があるのではないか。
参加者 B	統合となった場合、気高中学校の生徒は影響がないとは思いますが、気になるのは青谷、鹿野のこと。通学が不便になるので、何らかの手配を行うのか。学校が無くなると地域の活力が無くなるが、それに対しての振興策を、どのように考えているのか。
参加者 C	中学校の問題は青谷、鹿野の意見が優先されると思う。中学校についての2町の雰囲気はどのようなものか。
参加者 D	統合には反対。「教育とは学校、地域、家庭が一緒になって行うもの」とよく言われるが、統合すれば学校と地域は離れることになる。先ほどの教育講演会の中でも、地域の大人が子供を育てるといった視点が大切とのことだったが、それも無くなっていく。親同士の顔が見えるといった関係が無くなっていき、親同士が話し合いで解決できる問題も、顔が見えないばかりに大問題へと発展する可能性が高い。保護者にとってもデメリットが大きい。地域としても学校を基軸として活性化を図るところがあるが、学校が無くなれば活性化も出来なくなる。もしも青谷、鹿野の中学校が無くなると、2町の地域活力が無くなる。地域活力の面で気高だけが現状維持となっても、全体的に考えるとマイナス面が大きくなる。気高だけが大丈夫という訳にはいかない。地域は連携したものだ。統合は学校にとっても地域にとっても保護者にとってもデメリットが大きい。
参加者 E	お願いがある。耐震改修が必要な校舎が既にあるのに、耐震改修を進めないで学校のあり方を議論するのはあり得ない。施設が危ないのであればまず改修して、無駄銭と言われようが、子供の命を守ることが大事じゃないのかと思う。公の施設で耐震に問題があるのであれば、まず改修して問題をクリアする。それから学校のあり方を考えるのが筋だと思う。物事の順番が逆である。学校で子供が命を落とすことになれば、誰が責任をとるのか。それが非常に不安であるし、不満である。命は買えないんです。
参加者 A	今の意見に賛成。耐震補助で整備したものについては、用途が変わっても返還の必要が無いことになっている。学校の耐震化の補助金が手厚いのは、公立の学校は地域の防災拠点として活用されることが期待されるため、それぞれの地域の学校を耐震化補強や工事をしておけば、その後用途が変わって学校でなくなっても、地域の避難所として活用もできる。だからまず優先的に耐震化を進めるべきだと思う。